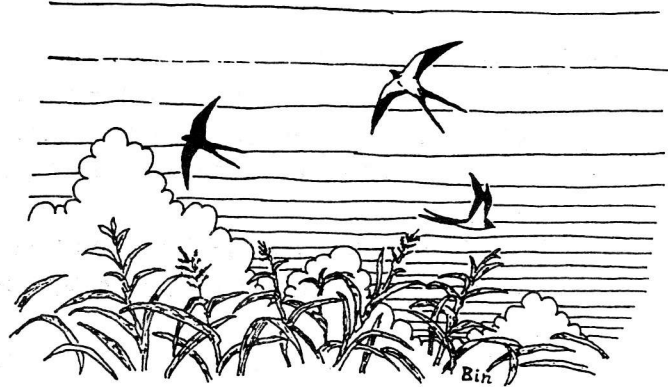


やまざと

会報 17号 (2003年度夏号)



金沢大学ワンダーフォーゲル部

創部45周年記念総会・懇親会

*日時 平成15年9月13日(土)午後4時～

14日(日)午前

*場所 石川県石川郡白峰村字白峰 白山まるごと体験村内

・緑の村 コテージ3棟

・白山国立講演センター2階 レクチャーホール

*参加特別記念品 白山・高三郎・医王山絵柄 白磁カップ

中村 元風氏(20期OB 日本工芸会正会員 前田家御用窯指定)

*二次会 倉谷・ベルクハイム (兼:初秋の山小屋酒場)

14日(日)午後～15日(月・祝日)午前

総会招請

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会会長

奥名 正啓

金沢大学ワンダーフォーゲル部OBの皆様へ

私達を取り巻く環境は決して楽観的なものではありませんし、その変化は、予想を越えた速さで進んでいるようです。そんな中で、途切れることなく脈々と流れ続けてきた金大ワンゲル部の歴史が積み重なって45年を数えようとしています。

新たな5年の歴史を省みて、さらに来るべき半世紀へ向けて新たな道を探るべく、OB総会を開催します。

私達すべての世代に共通する「白山」。その麓に抱かれた白峰村でお会いしましょう。

参加お申込について

- * 参加お申込は、郵便振替での入金にて受付けます。
(運営費枯渇、また記念品準備のため、ご協力をお願いします。)



- * **締切 8月10日**

参加お申込の方には、事前案内にて詳細をご連絡いたします。

- * **参加予約金 5,000円** (限定記念カップ1個確保)

- ・ 総会当日、受付けにて、参加会費との差額をご納入下さい。
- ・ 参加不可になった場合…記念品のみ希望者と同じ条件とさせていただきます。
追加金3,000円で、年内発送となります。

◎ 記念品の追加希望、また、記念品のみ希望の場合

元風氏自ら1個1個絵付けのため、総会配布数は100個に限定しています。

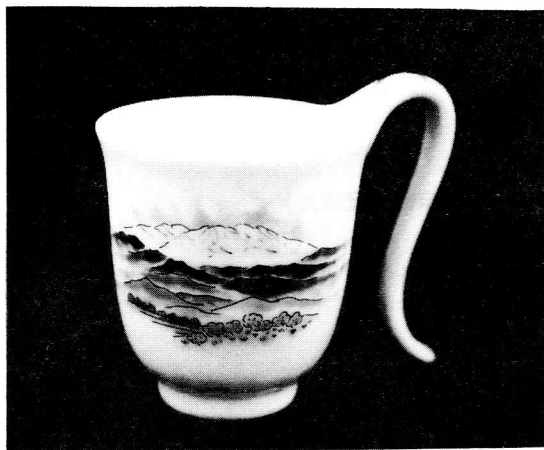
ペア、セットで、あるいはとっておきのプレゼント品としての複数希望、また参加不可ながら、記念品は希望する場合、**年内納め**の条件にて、入金ご予約を受付けます。

1個 8,000円 です。

なお、このカップは、ぐい呑みにグリップがついた仕様となっています。ソーサーをつけると、デミタスカップ&ソーサーとなり、より用途が広がります。この別売りソーサーにも、記念カップに合った絵付けをしていただけます。

1枚 2,000円

通信欄に**内訳を明記**のうえ、**総額**をお振込み下さい。(写真参照)



元風氏の作品は大聖寺の九谷焼美術館にてもご覧いただけます。

同種の一般絵柄でも、氏の場合、ぐい呑みは1個15,000円、ソーサーは1枚5,000円が市価となっています。今回破格値でご入手いただけるだけでなく、事務局へはさらに低い納入価をご協力いただき、運営資金確保も兼ねることになっています。

なお、元風氏はワングル2回生の秋、第四次白山～BHP.W.のメンバーとして、金大ワ

ングル究極のこのヤブコースを踏破しています(昭和51年10月3日～15日 L梅)。白山はともかく、医王山、まして高三郎をも描いた作品は、これまで、そしてこれからも世に出てくることはないことでしょう。

一個、一個思い入れをこめて、同じ思い入れを享有するOBに、思い入れ価格でお配りする、金大ワングル究極の記念品です。

末長く、とっておきの時間をお楽しみいただけますよう、ご購入下さい。

例

通信欄) 振込み内訳

参加費... 5,000円

追加カップ1...8,000円 ソーサー2... 4,000円

計17,000円

總會...参加 二次会...日帰り参加

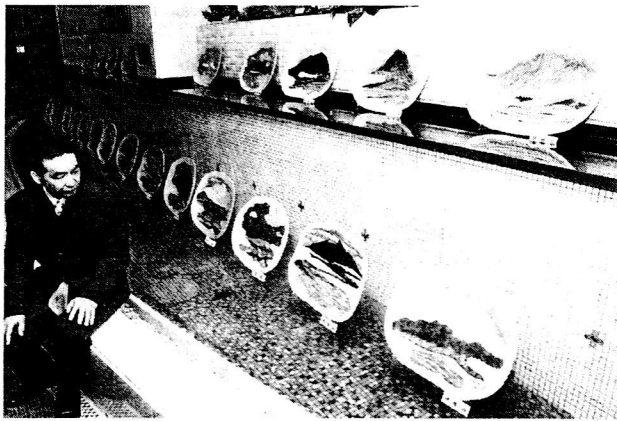
CODE1512舟田 節子

(宛名ラベルのCODEも記入して下さい)

九谷で鮮やか「百名山」

加賀の中村さん 47都道府県から独自選択

久弥生誕 大皿制作 100年を記念 枚完成へ



完成した大皿を眺めながら今後の制作に思いをめぐらす中村さん＝加賀市内のホテル

ホテル百万石で9月公開

「日本百名山」の著者で、加賀市大聖寺出身の登山家である深田久弥の生誕百年を記念して、全国の名山百カ所を描いた九谷焼の大皿百枚の制作が地元作家の中村元風さん(四七)＝同市大聖寺錦町Ⅱの手で五年がかりで進められ、七月にも完成する見通しとなった。九月には「ふるさと百名山」と題して一般公開される。

同市山代温泉のホテル「全国から訪れる観光客「日本百名山」を皿に表現する」ことを提案した。百万石の吉田久男社長が「全国から訪れる観光客「日本百名山」を皿に表現する」ことを提案した。一九九八(平成十)年に作品制作をこ持ちかけ、大皿は縦約四十センチ、横

北 國 新 聞

2003年(平成15年)5月9日 (金曜日)

北 國

2003年(平成15年)5月21日 (水曜日)

約六十五枚。絵柄に立体も七月をめどに完成する。た。中村さんは金大在学中にワンダーフォーゲル部に所属、題材となる山の半分以上に登ったり、見たことのある中国や九州地方は、独自に代表的な山村さんは「加賀市を訪れる人が皿に描かれたふる和風レストランに展示された。残る六十枚のうち、あまり知らないような山を作ってくれようという。約四十点は仕上げ段階は別の山に替えるなどしい」と話している。

舞 台

これは「持ちやすさ」という結論に達した。

古九谷と今九谷

今九谷とは、九谷焼のルーツ古九谷の「用と美」の本質を今に表現しようとする、私の窯の作品群の名前である。古九谷の用の特長とは何か。古九谷百点ほどを十年間身近に置き、使うという経験をし、その大仏の耳のような形で、特許庁に意匠登録された。元風グリップを世に出せようとした。その時、思いもかけず、九谷焼創業者である大聖寺藩主前田家より、御用窯の認定を受けた。前田家の格式と元風グリップの新奇性が合わないのではないかと悩んだ。しかし、意外にも当主の前田利弘様が元風グリップを高く評価され、悩みは氷解した。



中村 元風 (陶芸家)

古九谷の用の特長は「持ちやすさ」と定義あることが実証されている。(加賀市)

(元風氏との打ち合せ通信文より)

(略) 山を作品にできるのは、ワンゲルにいたからこそと思っています。
その感謝のつもりで、今回の記念品制作を引き受けたつもりです。

今回の記念品の試作を兼ねて、白山をぐい呑みに描き、3月に行われた東京、日本橋高島屋での個展に出品してみました。15,000円の価格でしたが、すぐに売れてしまいました。記念品は、試作品とほぼ同じテイストのものを、白山の他に高三郎と医王山も描きこんだものにしようと考えています。化粧箱入りです(木箱ではありません)。試作品の写真を参考に同封します。

制作に時間がかかる作品になってしまっていて困っているのですが…。

原則、出席者御一人一個限定でお願いします。参加出来ず欲しい方、二個以上欲しい方は…(後略)



「初夏の尾根にて」
イラスト：竹中敏

メッセージ

金沢大学ワンダーフォーゲル部部长

OBの方々こんにちは。最近の私たちの活動などについて報告します。
今ワンゲルの現役部員は、4回生6人(男3+女3)、3回生7人(2+5)、2回生14人(11+3)、1回生8人(6+2)で構成されています。
今年の夏合宿は、1~3回生の30人強が参加し、全部で4パーティーあります。

北アルプスパティー (L:松本)
中央アルプス (L:荻田 SL:岩田)
南アルプス (L:伊藤 SL:池田)
南アルプス (L:敵田)

となっています。今後の予定としては、

6/21~22と6/28~29 第一回トレーニング山行(獅子吼、口三方、富士写ヶ岳)
7/5~6と7/12~13 第二回トレーニング山行(白山…もしこの日に白山に来て
金大ワンゲルらしき人達を見かけたら是非声をかけて下さいね。)

そして8月に夏合宿です。

今年から10月には秋合宿(一泊で医王山に行って紅葉を楽しむ、など)を行ってみたいとも思っています。

懇親会では私たちも、普段は話せないOBの方達との交流を楽しみにしています。山や皆さんの現役時代について、また、お仕事や趣味などの個人的なことまでもいろいろ聞いてみたいです。私たちの大学生活や今のワンゲルのことの話も、興味があったら是非聞いてみて下さい。

それでは楽しみに待っています。

会報発送者名簿訂正分 (平成15年6月末現在)

- 0404 高田 昌嗣 メール変更 masa_takada2@ybb.ne.jp
 1206 近藤 正興 住所変更 929-0112 石川県能美郡根上町福島へ202
 1514 松下 重人 勤務先変更 松下医院
 2512 荒戸 美雅 住所一部訂正 守山区小幡北112
 2514 藤枝 宏淑 住所変更 190-0034東京都立川市西砂町2-30-22 042-520-2051
 2607 嶋田 雅昭 住所変更 647-0042和歌山県新宮市下田2-6-2
 2807 土井 泰彦 住所変更 837-0915福岡県大牟田市大字久福木640-1
 アムールコート1205 0944-55-0587
 3013 山田 健治 住所変更 703-8247岡山県岡山市さい東町1-14-12-3
 サンライズ原田A201 086-271-1401
 3411 松浦 真也 住所変更 651-2121兵庫県神戸市西区玉津町水谷597-1EVAH II 202
 3708 山本 英男 住所変更 332-0016埼玉県川口市幸町3-12-33ドミールカネコ205
 048-258-6740 ㈱NTTデータ yamamoto@nttdata.co.jp
 3811 牧原 弘明 住所変更 067-0000北海道江別市ゆめみ野6-3
 3812 三浦 永士 住所変更 320-0065栃木県宇都宮市駒生町3352-2
 ハイムはせがわ205 028-600-1760
 4105 長谷川 夏樹 名簿復帰 088-1113北海道厚岸郡厚岸町愛冠5 北海道大学理学部厚岸
 4204 矢内 佑一 住所変更 332-0004埼玉県川口市領家4-2-8大日精化工業㈱
 川口寮A220
 4302 阿南 真弓 住所変更 461-0027愛知県名古屋市東区芳野1-2-19-402
 4303 加藤 菜就 住所変更 923-1200石川県能美郡辰口町字宮竹ハ5-1
 博辰アパート202
 4305 清水 健作 住所変更 466-0811愛知県名古屋市昭和区高峰街60-3
 ベルフォーレ高峰203
 4306 井澤 寿代 住所変更 920-1165石川県金沢市若松町76街区4-308
 4308 谷上 望 住所変更 206-0021東京都多摩市連寺2-73-9-207 042-338-3422

奥野の小屋
 杉村の小屋
 →



八ヶ岳

3期 登内 郁夫

OB会費納入者 (平成15年1月～6月末)

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 4105 長谷川 夏樹 | 4204 矢内 佑一 | 4305 奥野 岳志 |
| 4307 矢田部 桂 | 4208 谷上 望 | 4310 杉村 明慶 |

2003 OBスキー 合宿 in 野沢

2003年2月21日～24日

田村（3期）、保田（9期）、青柳、上村、
片田、片田道子、加藤、森川（以上11期）、
奥名、舟田（以上15期）

幹事 11期 青柳 健二

野沢から帰って三日目、筋肉痛に悩まされています。関東地方は、やや風が強いが快晴の日々で、3日間の降雪の中のスキーが夢物語のようです。

さて、今年の野沢スキーは、スキーを無くす人も無く、眼鏡を壊す人もなく、ストックを落とす人もなく、至極平穩無事に終わりました。

いやいや、大事件として記憶に残ることが一つありました。あの名手保田さんが、スカイラインコースで2回も転ばれたのです！！朝一番の圧雪された大斜面での、新カービングスキーによる快適滑走に陶酔してのことかとも思われますが、我らには安心感を与えてくれました。

さて、居残組（田村・加藤・片田2・青柳）の報告をしますと、23日、日曜日の午後は、空いてきたやまびこゲレンデで、片田父娘をメインモデルに、加藤監督のVTR撮影会。疲れが出てきたこともあり、3時すぎには宿に帰り、田村さんを加えて4時過ぎから温泉巡りを楽しみました。これも野沢の魅力です。大湯～動く歩道～麻釜で温泉卵を食べ、～一番奥の滝の湯に入ると戻ると丁度6時過ぎで、美味しい夕食が待っていました。食後には、片田道子嬢のピアノ（卒業試験の課題曲）を拝聴しウツトリ。

24日、月曜日は相変わらずの小雪模様。ガラ空きとなったゲレンデで、スキーを堪能。監督もVTRを持たず、替わりに小生のデジタルカメラで記念写真。スカイラインコースを3休程

度で走破し、やまびこゲレンデもノンストップの暴走振りで、キモチイイ！！の一言に尽きます。

さて、1時過ぎに加藤・片田父娘と別れると、一人ポッチになりましたが、今回のスキーの総まとめ。パラダイスゲレンデに移って、VTR撮影でのカッコ付けで乱れたスキーを、保田先生のアドバイスを反芻しながら、微調整。チャレンジコースとユートピアコースをこなして、パッチリとカービングイメージを復元出来て、今回の野沢を締め括ることが出来ました。メデタシ・メデタシ。

登内さん。伊那のお饅頭と馬肉の薫製を有難うございました。素敵な版画付きのお便りまで付けていただき、涙が出ました。次回はスケジュールを調整し、スキー持参で来て下さい。

芝田さん。塩羊羹を有難う。駅売店の塩田の塩羊羹とは別の味を楽しめました。次回は是非自分の手に持って来て下さい。

保田さん。色々ご指導有難うございました。ヤッパリ我らにとっては、いつまでも頼れる大先生です。今シーズン、もう1回いかがですか。天神平の春スキーも楽しいですよ。

森川さん、加藤さん、片田2さん、奥名さん、舟田さん、そして田村さん、相変わらずの楽しいスキーと温泉とお茶とお酒、結構でした。「今年もまだガンバれる。まだまだ進歩出来る」と実感し、また来年も共に楽しみたいと思うのです。次回も宜しく！！

さて、CCの今回はご参加戴けなかった皆さん。次回のKUWV・OBスキー合宿には、是非お会いしましょう！！スキーと温泉を楽しめるスキー合宿を、まだまだ続けますよ！！



9期保田 11期上村 11期青柳 11期加藤 15期舟田 15期奥名 0期田村 11期森川

春の山小屋酒場

5月11日(日) 吉田 穂積(二代目オヤジ)
資材をダム管理事務所前に搬入

5月16日(金) 現役2回生4名、倉谷まで
資材をポート搬入

5月17日(土)~18日(日) 山小屋酒場
早朝先発...15期上馬康生(高三郎登頂)
本朝先発...13期吉田、辰野隆義 15期舟田節子
17期北川隆次
昼発...13期柴田茂樹、柴田訓子
夕発...18期椿川利弘、岡部伸一、宏亮(小2)
(18日高三郎登山)



辰野 吉田 柴田 北川 椿川

* 犀川ダム管理事務所前においてある資材一覧

- | | | | | | | | |
|----------|-------------------|------------------|------|------|----|---------|--------|
| 1 木材 | 90×90×4000 | 2本 | 上馬 | 岡部 | 岡部 | 柴田 | |
| | 30×105×1600 | 1本 | | | | (by 舟田) | |
| | 40×45×1500 | 4本 | | | | | |
| | 30×90×300 | 4本 | | | | | |
| 2 レンガ | 45×45×200 | 30個 (ダンボール2個に分包) | 約40* | | | | |
| 3 セメント | 20* | 1袋 | | | | | |
| 4 ボルト | 330 ^{mm} | 3本 | ナット | 3個 | 座金 | 6個 釘 | ビニール1袋 |
| 5 ビール | 1ケース | | | | | | |
| 6 荷作りテープ | 1巻 | カッター | 軍手 | 1ダース | | | |



ベルクハイム資材運搬作業報告

報告者: 47期 三田村直樹
共同作業: 47期 鈴木宙、西村亮、久岡雄介
天候: 小雨

概要:

- ・ 資材を犀川ダム管理事務所からベルクハイムに運搬した。
- ・ 川砂と小石を川原からベルクハイムに運搬した。
- ・ ベルクハイムの中を軽く掃除(ほうきで掃く)した。

詳細:

部室にて、鈴木、西村、久岡と合流。
プリントに書かれていた、
「木材 90x90x4000 2本」
の文字に不安を抱きながら犀川ダムを目指す。

13時過ぎに犀川ダムに到着。
管理事務所前に二人の男性。
遅れてしまったことを謝りつつ、菓子折りを渡す。

資材をポートに運ぶ。

ポートは急な階段を下ったところにあった。
4メートルの木材は思ったより軽い、一人で持つのは辛い。
二人で持ちながら、慎重に階段を下る。
資材を運び終えたらポート発進。
運転手は西野さん。

ポートがダム湖を縦断する間に、ザックに資材を詰める。
木材以外はザックに収まった。
鈴木が意気込んでセメントとレンガを詰めたが、後に「夏合宿より重い…」と苦しむことになる。

やはりポートは速い。
あっという間にダム湖縦断の旅を終え、ベルクハイム近くの船着場に到着。

資材をボートから降ろし、西野さんに迎いの便を頼んで、ベルクハイムを目指す。
4 mの木材は一本を二人で持つことにした。

いざ出発！というところで、西野さんに「そのくらいの木材なら一人で持て！」と注意される。更に西野さんは「こうやって肩に乗っけるんだ！」と実際に持ち方を指導してくれた。指導通りに持つが、木材がザックの肩ベルトに乗っかるので、肩ベルトが肩に食い込んで痛い！しかし、二人で持つことを西野さんは許してくれそうになかったため、とりあえず一人で持って歩いてみる。慣れない作業と肩の痛みで肩の上の木材はフラフラと揺れ、木材の端が土や木にぶつかる（4 m木材の端が欠けていたのはこのせいです。すみません）。西野さんが見えなくなったところで、やっと二人で持つ。

ベルクハイムへの最後の上りは急なので、4 m木材を置いて先にザックだけ運び、一度降りて4 m木材を運ぶ。

ベルクハイム到着。
約一年ぶりのベルクハイム。去年の小屋作業が懐かしく思い出される。
霧の中の大木。太陽光が霧で乱反射して神秘的だったことを覚えている。

ベルクハイムの鍵を開け、中に入る。
中は虫の死骸だらけ。ほうきで掃くが、その量にビックリ。

「人間の歴史は掃除の歴史。人間は必死に掃除しつづけることで生き延びてきた。」と誰かが云っていたが、それを実感。資材を運び入れ、ブルーシートの上に乗せる。

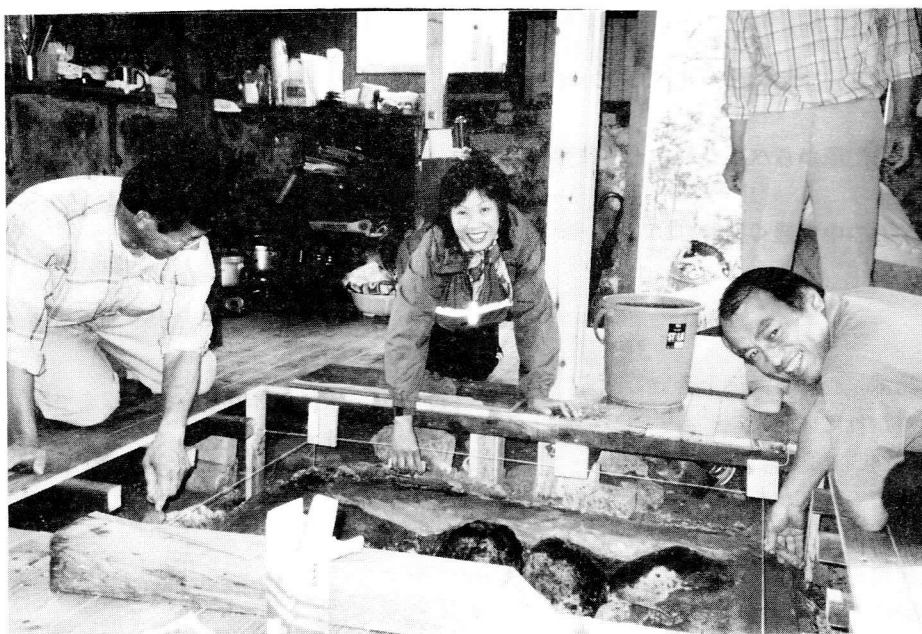
次は川砂。
バケツを持って川まで下り、なぜか皆で小石を集めだす。バケツに八割程集めたところで、西村の「セメントを使うなら砂を集めるんじゃないか？」という発言で間違いに気付く（セメントとアスファルトを間違えていた）。

今度は川砂を、掻き集める（甲子園で敗北した球児のように）。
せっかく集めたので小石も少し持っていくことにした。

川砂と小石をベルクハイムに運び、作業完了。ベルクハイムに鍵をかけて西野さんの待つボートへ向かう。

ボートで管理事務所に戻り、西野さんにお礼を言って帰路につく。

以上です。





柴田茂樹・訓子

いつもは、奥名氏のOB通信を拝見するだけで、なかなか参加する機会がありませんでしたが、今回思い切っ行って行き、皆さんと楽しい二日間を過ごすことが出来ました。OBのいろんな行事も、舟田さんの一方ならぬご尽力のお陰で成り立っているんだと、改めて再認識致しました。

今回、13期伊藤純治、岩田実にも呼び掛けたのですが、兩名とも仕事が入っており、残念がっていました。秋の45周年には是非、大勢で参加したいものです。その時にはまたご迷惑をお掛けするかのしれませんが、宜しくお願ひします。

辰野 隆義

あれからベルクハイムに行ったことがありますか？いいですよ。本当に落ち着きます。瞬時に昔にタイムスリップ出来るんです。姿、形は現在形でも、心は我が青春に戻ります。忙しい世の中、何も考えずに過ごせるなんて…いいですね。是非一度お越し下さい。秋には囲炉裏も完成し、より楽しいスペースになる予定です。

吉田 穂積

ベルクハイムは心地よい木の床、懐かしの囲炉裏、それに何といても水量豊富な水洗トイレのある快適空間になりました。学生時代にはタバコが切れたといっちは駒帰まで歩いて買い出しに出掛けた人もいたが、車でダムへ入れるようになった今、利用する現役は激減しているらしい。暇が出来たら、何もしないでポケッと過ごしに行ってみようかな。きっと一日は長いんだろうな。

上馬 康生

山小屋作業ならぬ、山小屋酒場（ほんとに季節の料理とおいしい酒が出ます）に参加して、高三郎山にも登ってきました。山の空気は何とも言えず清々しく、日々の暮らしの、諸々のいやなことも洗い流してくれます。山頂目指して一歩一歩足を進めて行くと、新トレの頃のことや、卒研の調査で毎週のように登っていたことが思い出されました。キックステップで雪を蹴散らして最後の登りを終えると、見越山から奈良岳、大笠山、そして奥三方山の左奥に白山が霞んでいました。思わず頭を下げ、ここまで来れたことに感謝。また来ることを約束し、山を降りました。

皆さんもベルクハイムへ、白山へ、そして今年9月の記念行事へ是非来て下さい。

舟田 節子

「持ちたいけれど、いざ持つと厄介なのは二号さんと別荘」なのだそうです。不況のご時世ますますKUWV・OBとは無縁の“教訓”。でもでも、OBの皆さんには、別荘ならあるんですよ！

生活習慣病を思えば、1時間強の自然散歩も丁度、丁度。秘境大牧温泉なんて目じゃない。自然がドブブリ、中高年登山ブームにも決して汚染されない第一級の自然です。そしてカメ虫やオロロに免疫を持つワンゲルOBでないと、小屋の持つオーラは決して感じられないことでしょう。

小屋にまつわる思い出は多々、良くも悪くも…。でも、小屋のない倉谷が想像出来ますか？お城から大学は消えましたが、あの倉谷には、今もベルクハイムが建っているのです。

皆さんの浄財が、小屋に注ぎ込まれています。

オーナー権を行使すべく、監査も兼ねて、どうぞ今一度お越し下さい。

椿川 利弘

単なる酒場と思いきや、近くで調達したウドやタラの芽の天麩羅、ワラビの酢の物の他、干鰯、ホタルイカの酢味噌あえ、具のいっぱい入った味噌汁など、酒より料理がメインで、ワンゲル時代とは大違い。

自分は数年に一度参加していますが、皆さん一度来てみたら。

先輩方が補修したベルクハイムと我らが高三郎は、当時と変わらなく(?)迎えてくれますよ。

**囲炉裏備品
募集**

ふるさとの実家に眠ったままの
囲炉裏備品がございましたら、
ご提供下さい。

自在鉤、火箸、灰、ごとく…
山小屋にて活用させていただきます。

もう楽がっく08合宿の水無月と名で付いた
まに。先月にはやつと野田、野宮、北条と
飛行機で付いた。
ヤル様は、今合宿の山小屋の登山の途中
でこの山小屋の西側に、登山の途中
からの登山者が、登山から降りた後、
散居している者がいます。
次回(9月)も登山にいきます。
よろしくお願いします。
2003.6.3



3期 登内 郁夫



新緑と残雪の北アルプスへ（1～3期、同期会）

西尾皓史（第3期）

今を去ること42年、昭和36年度のワンダーフォーゲルクラブ夏季合宿は、8/1～8の8日間の「北アルプス双六岳周辺」への集中登山だった。上高地-槍-双六コース、常念-槍-双六コース、燕-槍-双六コース、烏帽子-三俣蓮華-双六コース、薬師-三俣蓮華-双六コース、そして、ボッカ隊の新穂高温泉-双六コース、に分かれて双六を目指し、8/3には双六キャンプ場に全員無事集結した。しかしながら、この年は天候には恵まれず、8/4～下山の8/7まで、徹底的に雨とガスに悩まされて動きがとれず、4日間沈殿した挙句、8/7に新穂高温泉を目指して下山する羽目になってしまったのである。

このような苦くて懐かしい思い出を胸に、今年の「同期会」は新緑と残雪を求めて、北アルプスの麓（平湯温泉-新穂高温泉）に集まることになった。

5/22、午後1時に平湯温泉バスターミナルに集合した11羽の老鳥は、今年からマイカー規制となった乗鞍岳畳平へバスで向かうこととなった。

乗鞍岳山頂の剣ヶ峰に登るには時間も体力も足りず、魔王岳（標高；2,764m）を往復しただけだったが、穂高-槍の北アルプス連峰や御岳の雄姿をとらえることができ、また、加賀白山の華麗な姿も春霞のなかに確認できた。

翌5/23は、朝早く平湯温泉を発って新穂高温泉に行き、ここからロープウエーを乗り継いで千石園地まで登った。

ロープウエー背後に迫る笠ヶ岳、眼前にそびえる西穂高岳や槍ヶ岳、午前の早い時間だったので空気も澄み渡り、本当にすばらしい勇姿にしばし見とれて言葉が出てこない。

この千石園地は標高；2,150mで、残雪が50～100cmほど残っていたが、元気な老鳥は約1時間30分にわたる雪上の苦闘（苦登）の末、無事西穂高山荘（標高；2,385m）に到着し、反対側の谷に横たわる上高地をしっかりと目で捉えることが出来た。

5/24の朝、新穂高温泉のすばらしい露天風呂に未練を残しながら、平湯温泉に向かい、ここからバスで上高地を往復した。数時間の上高地散策だったが、久方ぶりに訪れた、河童橋、梓川、大正池、そして、焼岳の姿に、懐かしい思いが交錯し胸がいっぱいになるのを覚えた次第であります。

この3日間の「同期会」は、天候にも恵まれ、すばらしい思い出の1ページを綴ってくれました。

以上



4期 高田 昌嗣

やまざと16号が無事届きました。舟田さん、奥名さんはじめ、関係者のご努力には、いつものことながら、頭が下がります。

現役部員達の自己紹介は大変興味深く読みました。なにしろ45周年ともなれば、現役部員達は自分の子供達よりも若いわけで、記念行事中の交流の予備知識として大変役に立ちそうです。試しに、自己流にこれらの質問にこたえてみると以下の通りです。

- ①ワングルに入った動機…もともと山登りは好きであったが、先輩達のうまい勧誘に乗せられたのと、創立2年目の若い部であったこと
- ②小屋作業感想…小屋作業ではないが、城内の馬術部の馬場の片隅にあった小さな屋根だけの小屋を、講義をサボってミカン箱などで修理して部室としたこと。この部屋は理学部へ行く途中の体育館の裏に部室が出来るまで、部員の集合場所であった。
- ③夏合宿感想…最初の夏山合宿が立槍縦走で、装備も悪く、何度もバテて皆に迷惑をかけた
- ④印象に残った山、行事、PW…白山。現役時代に厳冬期をのぞいて11回登ったが、北アとは違った包容力のある魅力的な山として、我が青春の山となった。
- ⑤ワングルに入って良かったこと…山行の調査、企画、準備、実行、またその各段階における各種変化への対応など、一つ一つのプロジェクトとして、他のメンバーと協力しながら自己完結させることを体験出来たこと。この体験は、後々の人生の色々な局面において、大いに役に立った。
- ⑥ワングルで今後やってみたいこと…残念ながら、今後も皆さんのお荷物となりそうだが、なるべく軽い荷物となるよう努力する所存。
- ⑦他、ワングル関連なら何でも…ドイツのワンダーフォーゲルは、過去の政治体制によって推進された背景もあり、今ではすっかり廃れてしまっているようです。ある時ドイツの友に、「俺は学生時代はワンダーフォーゲル部員であった」といったら、怪訝な顔をされました。本家で廃れてしまったものが、日本で健全な形で存続しているのは興味深いことです。45周年総会には是非とも参加するつもりで、今から楽しみにしております。

8期 篠島 益夫

やまざと16号受け取りました。これだけ発行が継続出来るのは編集者やOB幹事の皆様のご尽力によるものと、いつも感謝しながら、皆さんの山行きや生活に思いを馳せつつ、読ませて頂いています。

45周年記念行事には出席したいので、手帳にも日程前後を含めてマークして今度こそ出ると、期待しています。

最近の山行きですが、中四国岡山に勤務時代の昨年3月までには、中国の8座、四国の9座の300名山を少なくとも1回以上は登頂しました。仲間は舟田さんと同名の我が家の節子さん[妻]です。中四国を片付けた昨年3月以降は、山陰の大山にやや集中気味に、11月雪前まではいろいろなコースから登ってます。崩落寸前の山ですから険しく、難コースと事故も目立つので、コースを選びながらやっていますが、大山山塊はまだまだ楽しみそうです。

今の時期は冬山までは無理なので、雪の少ない、瀬戸内の1000mまでの山歩きを日帰りで続けています。地元の六甲山系、北六甲山系が多く、昨年10月に大阪本社に移動、住まいも神戸に戻ってからは、六甲山系も7回に分けて、須磨公園からJR宝塚駅までの縦走コースを二人でこの2月1日には完了したところです。

ゴルフはセンスに恵まれないので、25年以上やっていましたが、この5年ほど徐々に戦線縮小して、嫁さんを巻き込んでのワングル活動の復活になったのですが、この先は孫の成長を見て我が家のワングルクラブ活動を盛んにしたいと期待を膨らませています。 2月9日

15期 宇野 潔

私の妻：和子(17期：旧姓山田)が、去る2月17日午後10時10分他界しました。享年49歳でした。

葬儀では本当にたくさんの人達(仲間)に見送られて旅立ちました。ワングルの仲間も大勢駆け付け、泣いてくれました。

思えば、和子が金大(ワングル)入学以来、30年間の人生を共に歩きました。日立、金沢、大阪、神戸と住処と職を代えても黙って明るく付いてきてくれました。3人の子供にも恵まれました。昨年4月で結婚25周年を迎えたばかりでした。ワングルという共通の思い出の中で支え合い(ほとんど支えてもらって)今日まで来ました。

「和子、たくさんの思い出を有難う。決して忘れません」

「お父さんは、残してくれた3人の子供達と、お母さんに負けないように頑張ります」

「ずーと、空から見ている下さい」

急性の胃癌(スキルス癌)で、入院した時はすでに肝臓とリンパに転移しており、入院の翌日、担当医から呼び出されて「長くて1ヶ月、早ければ1週間」と告げられました。まさに「晴天の霹靂」でした。

翌日、神戸市民病院(京大系でガンに強い)にCTのフィルムと検査データを持って走りましたが、所見は同じでした。膝から力が抜けていくのが分かりました。

「和子が死ぬ！」有り得ない事が起ころうとしているという事実に、やるせなさや悔しさに胸が張り裂けそうでした。

それから本人の希望もあり、2人（僕と和子）で先生から癌の告知と病状の説明を受けました。すぐには手術も化学療法も出来ないと言われ、和子自身非常にショックだったと思いますが、毅然とした態度で先生の話聞いていたのが印象的でした。「予後は決して良くないと思う」と私に言ったことばが耳を離れません。

すぐには高校受験中の次女（春菜）には癌と言わないで、上の二人の子だけには告げる事にしました。そして私学受験（滑り止め）の終わった翌日に、和子の口から子供達3人に「お母さんは癌で先が短い事」そして「新しい宇野さんちをみんなで作ってほしい事」を言い渡しました。泣き崩れる子供達に、淡々と話しかける和子の心の中は如何ばかりだったか…僕はそばに呆然と立っていました。

2月4日（火）に緊急入院し、2月17日（月）に逝ってしまいました。約2週間の短い闘病生活でした。でも、僕も含め家族全員で1回ずつ泊まり込み、誰かがそばに居てみんなで和子を支えました。

亡くなる前日の16日（日）には、「明日は東京へ出張だから」というと、「大変ね、行ってらっしゃい」といつものように言っていました。まさか翌日遠くに行ってしまうとは夢にも思いませんでした。

夕方から急変し、東京から飛行機で着いた時には息も絶え絶えで、その後正紀（長男）が広島から駆け付けて、約10分後に家族みんなに見送られて逝ってしまいました。

思いは尽きません。過去を思うと、ワングル時代から昨日までがあふれてきます。

さようなら 和子

P.S. 忙しい中、駆け付けてくれた仲間達（15期、16期、17期）本当に有難う。

20期 高田 泰夫

早々の連絡有難うございます。振込みは北国銀行の方に纏めて6年分（12,000円）振込んでおきました。実は今年8月より、転職で、韓国 SAMSUNG 電機に単身赴任で行きますので、そろそろ身の回りの整理を行なっている次第です。尤も、妻子は、富山で羽根を伸ばしているでしょうから、私も少し向こうで慣れたら暇を見て韓国の低山を散策してみようと思っています。OBの一人として、少しでもワングルのお役に立てれば幸いです。HPを見るたび、多くのOBの御活躍には頭の下がる思いです。甚之助小屋は私の尤も好きな白山の山小屋で、あそこから見ると景色は最高ですね。では。



サンゴウチョウ

映像資料募集

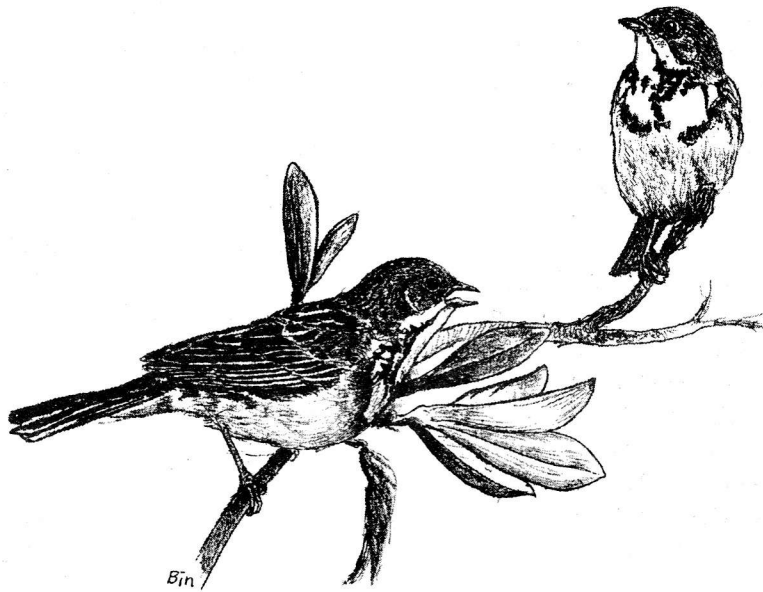
総会にて、倉谷・高三郎ビデオを放映予定ですが、出来れば古い写真なども、この際収集し、ビデオ映像として編集しておきたいと考えています。

今からでは間に合わない公算も大ながら、来る50周年には、ワングルの半世紀を語る巨編がご披露出来るかも…。

特にITに強い方は、CD-ROMなどの媒体にて送付協力をお願いします。

宛先 スタジオ「ゆっくり」
11期 加藤 忠男

674-0057兵庫県明石市大久保町高丘
5-21-43



ホオアカ

OB会報「やまざと」17号
(' 03 夏号)

発行日 平成15年7月
発行者 奥名 正啓
編集責任者 舟田 節子
印刷 プリントショップ多田

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会
事務局 ☎920-0911 石川県金沢市橋場町10-49
☎076-222-9288
E-mail settyan-f@muc.biglobe.ne.jp
URL <http://www001.upp.so-net.ne.jp/ma-okuna/kuwv/index.html>

奥名会長 E-mail ma-okuna@pa2.so-net.ne.jp
名倉名簿担当 E-mail nag@kso.njk.co.jp

振込口座 郵便局 00780-3-14120 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会
" 北国銀行本店 普223703 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会